

平成29年度 調布市立第三小学校 学校評価報告書

様式1

領域	自己評価結果の概要	学校関係者評価結果の概要	次年度への改善策	次年度 優先順位
学力向上	<p>○確かな学力の定着を図ることができたか。 ・Aあてはまる、Bややあてはまるを合わせると児童と保護者は約90%を占める。教員は約80%にとどまっている。</p>	<p>○データから学力の定着についてはほぼついているととらえる。「知識偏重ではなく、思考力や表現力を身に付けさせようという取組を感じるし、実際子供たちにも底力がつきつつあると思います。」等の声が寄せられている。調布市教育委員会の研究推進校として研究を積み重ねてきた成果が保護者や児童に伝わっていることがうかがえる。教員はさらに授業力を磨きたいと自己評価を厳しくつけている傾向にあると考える。</p>	<p>○授業改善推進プランを活用し、学力向上に向けて取り組む。 ○調布ベーシックプランの下、東京バーシッドリルの活用を図る。 ○授業時間増加の外国語活動について「Hi, friends」「Welcome to tokyo」を活用し指導法を工夫する。</p>	A
	<p>○主体的、対話的で深い学びの視点で児童が成就感を味わう個に応じた指導を図ることができたか。 ・Aあてはまる、Bややあてはまるを合わせると保護者、児童、教員の三者が90%を超える結果であった。</p>	<p>○データから個に応じた指導が指導ができているととらえる。「低学年のうちから算数を習熟度別に授業を進めているので学習の遅れが少なくよい取組だと思います。」という声から個別にも対応した指導ができていると受け取れる。これからも全教科にわたって個に応じた児童が分かりやすいと感じる授業を推進してほしい。</p>	<p>○タブレット等のICT教育機器の活用、指導法の工夫により個に応じた指導を行い、児童が「分かった」「できた」「もっとやりたい」と思える授業づくりを目指す。 ○交換授業・OJT・授業観察及び授業評価を充実させ、授業力を高める。 ○ペアトーク、グループトーク、ディスカッションにより、友達の考えと自分の考えの差異を見つけ互いに高め合う授業にしていこう。</p>	B
健全育成	<p>○いじめゼロ（完全解消）の継続を図ることができたか。 ・Aあてはまる、Bややあてはまるを合わせると児童、保護者、教員ともに90%を超える結果であった。</p>	<p>○データから他の人に思いやりの気持ちをもって接することができているととらえる。「クラスみんなが仲がよいとを感じる」の声とともに「遠足で1年生に対して思いやりの気持ちがもてたと思う。」異学年との交流活動も成果が大きいとみられる。その他にもユーフオーや地域の行事、ドッチビー等を通して人間関係を築くことができている。今後も継続してほしい。</p>	<p>○「危機管理対応マニュアル」「学校いじめ防止対策基本方針」に基づき、事件や事故・いじめを未然に防止する。</p>	A
	<p>○豊かな心の育成を図ることができたか。 ・Aあてはまる、Bややあてはまるを合わせると保護者と教員は約95%を占めている。児童は約80%にとどまっている。</p>	<p>○データから児童は自分に厳しい部分があり、保護者や教員よりはやや低い結果であったが、豊かな心は育ててきているととらえられる。「他のよさを受け入れ、尊重することができるのは、先生をはじめ友人がきちんと他者の意見を聞き、尊重していける空気を作ってくれているのだと思う」とてもありがたい。」というお声をいただくことができた。継続してほしい。</p>	<p>○道徳教育推進教師を中心に特別の教科道徳「考え議論する道徳」へ変革する。 ○全体計画・年間指導計画・別様を活用し道徳教育の充実を図る。 ○道徳地区公開講座を活用し保護者、地域の協力を得て心の育成に努める。 ○スクールカウンセラー、特別支援教育コーディネーター、スクールポーター、学校と家庭の連携推進事業の支援員、スーパーバイザー、関係諸機関と連携し個に応じた対応をする。</p>	A
健康・体づくり	<p>○体力向上を図ることができたか。 ・Aあてはまる、Bややあてはまるを合わせると教員は100%、保護者と児童は約90%となった。</p>	<p>○データから体力は身に付いているととらえる。「マラソン月間やなわとび月間があるおかげで体力がついていてよい。」という声から、体力作りに力を入れていることを保護者は理解している。教員は、体育の授業等で取組の成果を見る機会があるため体力がついてきたと思う割合が多いと考える。さらに広く体力向上の成果を伝えたり、公開したりすることを行ってほしい。</p>	<p>○マラソン月間、なわとび月間などを活用して成果を目指す。 ○体力テストの実施方法の再確認を行い、徹底させる。 ○スポーツ庁「子供の体力向上課題対策プロジェクト」協力校として、実態の分析を行い、握力、投力の向上に努める。 ○「わくわくタイム」「ロング昼休み」を活用し、体力向上を図る。 ○授業改善に取り組み、楽しみながら学習に参加できる工夫をする。</p>	B
	<p>○食育の推進を図ることができたか。 ・Aあてはまる、Bややあてはまるを合わせると教員は100%、保護者は99%となった。児童は約70%にとどまっている。</p>	<p>○データから児童は、好き嫌いがあることを自覚して、保護者や教員より低い結果であったがアレルギー事故防止に対する取組はできているととらえる。「給食は安全で無添加、バランスよく色々な献立を考えてくれて、しかもとてもおいしく、子供が学校に向かえる一つの楽しみ、魅力であります。」等の声が寄せられ、給食指導も含めた食育の効果が感じられる。児童の好き嫌いを減らす指導にも力を注いでほしい。</p>	<p>○保護者と学校が連携し、アレルギー事故ゼロを継続させる。 ○教職員の訓練によりアレルギー事故ゼロを継続させる。 ○栄養士と担任による食育指導の充実を図り好き嫌いを減らす。 ○世界の料理や和食についてさらに充実させていく。</p>	A
保護者・地域との連携	<p>○広報活動を推進し、情報発信に努め学校教育の理解を図ることができたか。 ・AあてはまるとBややあてはまるを合わせると教員は100%、保護者は95%となった。</p>	<p>○データから情報発信の状況が十分であるととらえる。「ホームページがたいへん充実していて学校の様子、教育活動がよく分かる。」「移動教室のとき、素速くホームページに掲載していただき安心できました。」等の声が寄せられている。今後も、充実した情報発信を望む。</p>	<p>○校長通信、ホームページの更新を週1回以上行い、一層情報発信に努める。 ○臨海学園、移動教室の折には速報で様子を知らせる。 ○台風などの対応については教育委員会の方針を受け、年度当初に確認文書を出すとともにホームページに掲載し、いつでも見られるようにする。</p>	B
	<p>○保護者・地域との連携を図ることができたか。 ・AあてはまるとBややあてはまるを合わせると教員は100%、保護者は95%となった。</p>	<p>○データから保護者・地域との連携は十分であるととらえる。「先生方が様々な行事に参加したり、見学したりしてくださっている姿をお見かけします。」という声があり、地域の方々や学校の教職員が連携して様々な活動が行われていることがうかがえる。外部講師の効果を感じているとのご意見もあり、今後も継続してほしい。</p>	<p>○地域行事に積極的に参加し、コミュニケーションを図る。 ○「ちょうふ花園」を訪問し、高齢者との交流を深める。 ○農業体験をはじめとし、地域の施設や人材を活用する。 ○健全育成、保護者の皆様のご協力の下、「明るい代表委員会」の児童を中心にあいさつ運動を行い、校内、校外であいさつができるようにする。</p>	B
特色ある教育活動	<p>○読書の習慣化、異学年交流を通して情操豊かな人間関係の育成を図ることができたか。 ・Aあてはまる、Bややあてはまるを合わせると教員は約80%、児童は70%保護者は約60%にとどまっている。</p>	<p>○データから読書については課題がみられることが分かった。「年間を通じて保護者が読み聞かせをしたり、担任や担任以外の先生が読み聞かせを行ったりする取組がよいと思うのでぜひ続けてほしい。」という声があり、読書活動の取組を理解している。その反面「読書を楽しんでいるようだが、本を読む習慣がついているわけではない。」というご意見もある。習慣化と内容の充実に向けてさらに効果的な取組を考えていく必要がある。</p>	<p>○OPTAサークル「とらいあんぐる」による読み聞かせを活用する。 ○図書委員会児童による読み聞かせを充実させる。 ○6月、11月の読書旬間の取組を活用する。 ○1月「本の福袋」の取組を大切に継続させる。</p>	A
	<p>○オリンピック・パラリンピック教育の推進を図ることができたか。 ・Aあてはまる、Bややあてはまるを合わせると教員は100%、保護者は85%となった。</p>	<p>○データからオリンピック・パラリンピック教育の推進が図られているととらえる。今年度は、フェンシング、ポッチャ、ブラインドサッカー等の体験や水墨画体験等日本の伝統文化を学んだり、外国の方々との交流や大使館からゲストティーチャーを招き国際理解を深めたりしている。今後も継続させていってほしい。</p>	<p>○オリンピック・パラリンピック学習読本を活用する。 ○発達段階に応じて体育的・文化的行事の体験を充実させる。 ○調布市小学生タグラグビー大会への出場により意識を高める。</p>	A